

南部少年野球連盟大会規定

1. 大会はトーナメント方式とし、1 試合 6 イニングとする。ただし、3 回を過ぎて 10 点、4 回を過ぎて 7 点以上の差が生じた場合はコールドゲームとする（決勝戦は除く）。ホームベースは大人用を使用する。
2. 試合時間が 80 分を経過した時は、新しい回に入らない（決勝戦を除く）。ただし、同点の場合は一死満塁の状態 で 4 番打者（3 塁 1 番打者、2 塁 2 番打者、1 塁 3 番打者）からタイブレークを行う。尚、勝敗が決しない場合は、さらに継続打順を繰り返し、最大 3 回までタイブレークを行い、それでも決しない場合は抽選とする。
3. 降雨等により試合再開が不可能と審判が判断した場合、その試合が 4 回を過ぎて点差がある時は、リードしているチームの勝ちとする。後攻チームがリードしている場合、4 回表終了時に試合成立とし、それ以外は再試合とする。
4. 試合会場への集合時間は、指定試合時間の 30 分前までとする。遅刻した場合は、担当役員及び対戦相手に不可抗力と認められない限り、遅刻チームは不戦敗とする。
5. 試合開始 15 分前までに、2 通メンバー表を作成して審判に届けること。
6. 試合中の言動は、選手は少年らしく、応援団も節度ある言動態度を遵守すること。
7. 審判の判定には無条件に従うこと。ただし、監督のみが抗議、質問することができる。
8. コーチャーズボックスには、当日メンバー表に記された選手以外は立てない。
9. ベンチ入り人数は、原則として選手 15 名、監督コーチ 3 名、スコアラー 2 名以内とする。ただし、相手監督の許可を得て、選手の人数を増やすことができる。
10. ベンチは抽選番号若番を一塁側とする。
11. 投手は 1 日 70 球制を採用する。1 回戦、2 回戦までは相手チームのスコアラーが投球数をカウントし、審判に報告する。準々決勝からは各チームから 1 名ずつ出て、相手チームの投球を「投球数ボード」で数える。
12. ベース、ラインカーは試合設営チームが準備し、試合球は設営チームが回収する。
13. 大会使用球は内外ゴム製 J 号とし、各チーム 2 球ずつ供出のこと。
14. 攻守交代は全力疾走で行う。
15. 審判については、1 回戦、2 回戦は各チームから 2 名ずつ出し、球審は原則として試合設営チームが担当する。準々決勝は球審のみ役員が担当する。準決勝、決勝は球審、塁審とも役員が担当する。
16. 試合消化目安を 1 週間過ぎた場合は、連盟が日程を組むこともあります。

以上の当連盟大会規定及び申し合わせ事項以外は、全日本軟式野球連盟・少年学童部ルールを適用する。